

外国人労働者受入体制推進支援 事業(海外調査)報告書



〔ホアンロン社 朝のラジオ体操前の様子 〕

2019年8月
公益財団法人岩手県国際交流協会

目 次

1	視察目的等	2
2	視察参加者	2
3	視察行程について	3
4	訪問先概要	4
5	送出機関について	7
	(1) 運営体制について	
	(2) 送出機関での技能実習生の生活について	
	(3) 日本語学習について	
6	所感	15
	補足：ベトナム高度人材について	16

1 視察目的等について

目的

出入国管理及び難民認定法の改正により、受入拡大が見込まれる外国人労働者の受入体制整備に向け、海外での送出国（機関）における技能実習生に対する事前研修（日本語研修）等の実施状況及び外国人労働者のバックグラウンドを把握し、外国人支援事業検討に係る基礎情報とする。

2 視察参加者について

公益財団法人岩手県国際交流協会

役 職	氏 名
理事長	畠 山 智 禎
主 査	大 山 美 和
ス タ ッ プ	高 橋 拓 実

3 視察行程について

月日	時間	予定	摘要
2019年 7月25日 (木)	11:30 11:50 発 14:04 着 14:40 着 16:35 発 20:35 着 22:00 頃	盛岡駅集合 盛岡駅発(こまち16号)→東京駅へ 東京駅着→浜松駅(モノレール) 羽田空港到着 羽田空港発(VN385)→ハノイへ ノイバイ国際空港到着→専用車にてホテルへ ホテル到着	専用車にて移動 宿泊先: ネスタ ハノイ ホテル
7月26日 (金)	8:00 発 9:00 着 11:00 発 12:00 着 13:00 発 14:00 着 16:00 発 21:00 着	ホテル出発→ホアンロン社へ ホアンロン社に到着→視察 ホアンロン社→柳屋ハノイ支店(My Oshi 03) 柳屋にて昼食 柳屋発→MVP社へ MVP社到着→視察 MVP社発→夕食会場へ ホテル到着	専用車にて移動 宿泊先: ネスタ ハノイ ホテル
7月27日 (土)	8:45 発 9:00 着 9:45 10:30 13:30 16:30 17:00 21:00	ホテル出発→Fortune Hotelへ(山口専務と合流) Fortune Hotel 出発→LABCO 人材教育センターへ LABCO 人材教育センター紹介・見学 実技試験見学 面接試験見学 合格者発表、合格者との面談を見学 LABCO 発→夕食会場へ ホテル到着	専用車にて移動 宿泊先: ネスタ ハノイ ホテル
7月28日 (日)	10:00 発 10:45 12:00 13:00 18:00 21:00	ホテル発 → LABCO 人材教育センター 合格者の保護者との面談 昼食 ハノイ市内視察 夕食 ホテル到着	専用車にて移動 宿泊先: ネスタ ハノイ ホテル
7月29日 (月)	5:00 発 6:00 着 8:10 発 15:05 着 17:20 発 19:33 着	ホテル出発→ノイバイ国際空港へ ノイバイ国際空港到着→チェックイン ノイバイ国際空港発(VN384)→羽田空港へ 羽田空港着→浜松駅経由→東京駅へ 東京駅発(こまち33号)→盛岡駅へ 盛岡駅到着 各自解散	専用車にて移動

4 訪問先概要

1 ベトナム基本情報(視察先滞在中にジェトロハノイ事務所北川所長より聴取)

- (1) 人口 約 9,690 万人 (2018 年, 国連推計)
- (2) 首都 ハノイ (人口 742 万人)
- (3) 面積 約 33 万km²
- (4) 民族 キン族(約 90%)、他に 53 の少数民族
- (5) 言語 ベトナム語
- (6) 宗教 仏教(約 80%)他カトリック等
- (7) 政治経済概要

政体は社会主義共和国で共産党の単独独裁体制であり、議会は任期 5 年の一院制を採用している。1 人当たり GDP(2018 年)は、2,587 ドル、日本の 1970 年頃とほぼ同水準だが共稼ぎが多く世帯収入は多い。GDP 伸び率(2018 年)は年 7.08%。同伸び率は 5%台～7%台が 20 年続いている。

貿易収支は 2018 年に過去最高の黒字。従来の軽工業品、一次産品に代わり、近年電子部品を中心とする工業製品の輸出が台頭し、貿易収支の黒字に寄与している。

主要貿易品目(2017 年ベトナム税関総局)は、輸出が、縫製品、携帯電話・同部品、PC・電子機器・同部品など。輸入が機器設備・同部品、PC. 電子機器・同部品、布地など。貿易相手国・地域(2017 年ベトナム税関総局)は輸出が米国、中国、日本、韓国など。輸入が中国、韓国、日本、台湾など。

通貨はドン。在留邦人は 17,226 人(2017 年 10 月現在)。日本商工会議所加盟企業数 1796 社(2018 年 7 月時点)

2 視察先基本情報

- (1) 日時：7 月 25 日(木) 午前：ホアンロン社【送出機関①】

会社名	ホアンロン人材派遣株式会社
日本事務所	〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅 4 丁目 23-9 MARUWA 名駅ビル 4 階 TEL 052-462-1081 FAX 052-462-1082
ベトナム本社	41 Le Hong Phong Street, Ba Dinh District, Hanoi City, Vietnam TEL +84 (24) 3757 8816
視察先住所	Trung tâm Đào tạo Khu nhà ở xã hội, Kim Chung, Đông Anh, Hà Nội 100000

【会社概要】

ホアンロン社は 1999 年に設立され、2013 年から対日向けに急成長。2018 年からは介護人材も派遣(初年度は 23 人)している。現在ベトナム国内に 300 社の送出機関がある中で学生数、日本語能力ランキングで 1 位を獲得している。92 教室を保有しており、最大で 2,000 名の学生の受け入れが可能である。現在は内定先の決まっている 18～35 歳までの 1,500 名の学生が在籍している。

(2) 日時：7月26日(金) 午後：MVP社【送出機関②】

会社名	Manpower Viet Nam Pacific Joint Stock Company (MVP)
日本事務所	1645-5, Nishioka, Kurashiki shi, Okayama, 710-0005, Japan (81)90-8359-2478
ハノイ本社	No 8/29, Vu Thanh Street, O Cho Dua Ward, Dong Da District, Ha Noi, Viet Nam 024-6291-6027
視察先住所	22-23 TT29 KHU DO THI VAN PHU, HA DONG, HA NOI

【会社概要】

MVP社は第1センターと第2センターに研修施設が分かれてる。第1センターには学生が119名、第2センターは97名の就職先が決まった学生が勉学に励んでおり、2018年は1年間で515名、2019年は4月までで270名の学生を送り出している。送り出し数は日本が増えている。日本以外にも台湾、マレーシアへの送り出しも行っている。

(3) 7月26日(金)LABCO社【送出機関③】

会社名	Labour and Commercial Cooperation Joint Stock Company (LABCO., JSC)
視察先住所	20b Linh Nam, Hoàng Mai, Hà Nội 100000 (84) 43-662-9110

【会社概要】

LABCO社はベトナム国営テレビ・ラジオ放送局であるVOV (VOICE OF VIETNAM)のグループ企業である。

現在30名のベトナム人講師と3名の日本人講師がおり、ベトナム人講師の半分は大学で日本語を専攻し、残り半分は元技能実習生である。技術(縫製、左官、ビルクリーニング等)を教える講師は別に駐在しており、日本での技能実習経験者が半分を占めており日本での仕事の仕方を指導している。

グループ企業(3社)を含めて昨年度は2,200人送り出し実績がある。2019年7月末現在、9,500名。

【L A B C O社視察主催者】

名称	岩手国際経済技術協同組合
同行者	専務理事 山口 幸朗
住所	岩手県花巻市材木町12-18
連絡先	Iwatekokusai.ys@g-i-h.net
事業	外国人技能実習生受入事業
受入中技能実習生数	2019年9月末現在 150名
受入技能実習生国籍	ベトナム・カンボジア・中国
受入実績業種	型枠施工、とび、鉄筋工、左官、工業梱包、縫製、ビルクリーニング、溶接、塗装、仕上げ、金属プレス他

L A B C O社視察同行企業

- ・ A社（縫製業）
- ・ B社（土木工事業）
- ・ C社（清掃業、ビルクリーニング等）
- ・ D社（建設工事業）

5 送出機関について

(1) 運営体制について

① 学生募集から採用までの流れ

ア 学生募集について

送出機関は地方の専門学校への訪問や、インターネットを利用し、日本で働く事に興味のある学生へ声をかけて募集を行っている。ホアンロン社はベトナム国内の高校 500 校と提携し、仲介業者が入らないようにしている。LABCO 社はベトナム国営テレビ・ラジオ放送局がグループ企業ということを活かし、各地方でのラジオ放送を利用した学生の募集を行っている。またラジオ放送とは別に、募集セミナーの開催も実施している。

イ 応募から企業面接まで

応募した学生は、採用企業が決まった学生とは別の研修センターにて企業面接に向け日本語（簡単な挨拶）の研修や、実技試験の準備をする。面接前の研修期間は、送出機関によって様々である（およそ1週間から2か月程度）。また送出機関によっては、企業決定後に初めて研修を開始する場合もある。

学生は研修センター滞在中に採用募集広告の中から企業を選び、申し込みをする。送出機関から学生へ企業が割り当てられるのではなく、学生の意思が尊重されている。

ウ 実技試験・面接試験内容（LABCO社）

a 実技試験内容

- ・ A社 → ミシン縫い ※写真1
- ・ B社 → 足場組立 ※写真2
- ・ C社 → シーツたたみ ※写真3
- ・ D社 → 左官(壁塗り)、腕立てなどの体力テスト ※写真4

※写真1



※写真2



※写真3



※写真4



b 面接試験 主な質問事項例と回答例

- ・志望動機
→お金を稼ぐため、(裁縫や左官の) 経験を活かしたい
- ・将来の夢
→開業(縫製工場、建材店など)、両親へ稼いだお金を半分あげる。
レストラン開業、日系企業通訳、日系企業リーダー、家の建て直し
- ・3年間の貯金目標、使用用途
→250万円~300万円。両親に半分、自分の工場や店を持つのに半分。
- ・日本に来る上で不安に思っていること
→日本語、気温(岩手の冬)
- ・日本で好きなもの
→桜、富士山、ルールを守る習慣、勤勉、親切、震災でも忍耐したこと。
- ・現在の給料の使い道
→月の給料が2万5千円。貯金5千円、親に5千円、小遣い1万円。

面接試験の様子



c 合格発表

面接試験が終わるとすぐ、合格者の選定に取り掛かる。実技試験と面接試験の結果を総合的に見て判断する。合格基準は様々で技術を重視する企業もあれば、待ち時間の態度を重視する企業もある。

合格者発表後は、家族(両親、兄弟)と合流し送出機関、学生、家族、企業の4者を交えて翌日に面談を行う。学生はハノイ中心部から離れた農村出身者が多いため家族は夜行バスを利用しハノイの施設へ向かう。合格発表の翌日に家族面談を行うのはこのためである。

合格者発表の様子



合格者と受入企業の記念撮影



d 家族面談の流れ

- (a) 送出機関 挨拶、御礼
- (b) 受入企業の紹介
- (c) 家族説明会の目的説明
- (d) 受入企業の挨拶
- (e) 受入企業代表者の説明(パワーポイント)
- (f) 実習生及び家族への注意事項説明

(日本語学習について、日本での仕事のルール等)

例：ルールはきちんと守ること、先輩の悪いところはマネするな

：寒さには慣れる

：逃げた人をかくまうと罪になる

：毎年試験があり合格しないと翌年は日本に在留できない

：暑いときに肌をだすと虫に刺され腫れる場合がある（ベトナム人は虫に不慣れ）

：他人の土地で山菜取りしてはいけない

：日本からの仕送りをあてに仕事を休む親がいるが、3年後は仕送りがなくなるので
仕事は休まないほうが良い。

：ベトナム人同士で話してばかりだと日本語は上達しないので、日本人とも話すこと。

自分のキャリアアップのためにも日本語学習に努力すること。

(g) 家族から企業への質問

例：身近なスーパー、病院について。

：住まいについて（アパート、共同住宅なのか）

：残業や休日出勤はあるのか(できるだけ稼ぎたい)

：年末年始は休めるのかどうか

：国際免許の取り方について

：病気やケガの負担について(就業中とその他の場合)

：日本語学習の支援はあるのか

(h) 記念写真撮影(手土産の贈呈)

家族面談の様子



(2) 送出機関での技能実習生の生活について

① 寮での生活、ルール等

寮では、日本での仕事や生活に対応できるよう厳しいルールの中、生活をしている。髪染めやタトゥーはもちろんひげを生やすことも禁止されている。また送出機関によっては授業開始15分前着席をしているかどうかや生徒の授業を受ける態度についてカメラでの監視を行っている。授業の遅刻はもちろん、掃除当番や門限など生活のルールについても決められており、3回違反をすれば退学処分になる。

寮は2段ベッドで1人当たり1畳である。ゴザの上にシーツで寝泊まりをしている。ただしベトナムの農村ではこれが標準とのこと。

寮の様子



② 日本語学習以外で学ぶもの

送出機関では日本語学習以外にも、日本生活や職場でのマナーやルールについても授業が割り振られている。報連相(ほうれんそう)のビジネスマナーから日本のごみの分別、交通ルールも指導している(原付きバイクの二人乗り禁止等)。指導内容は日本企業からのクレームやトラブル事例をフィードバックしている。

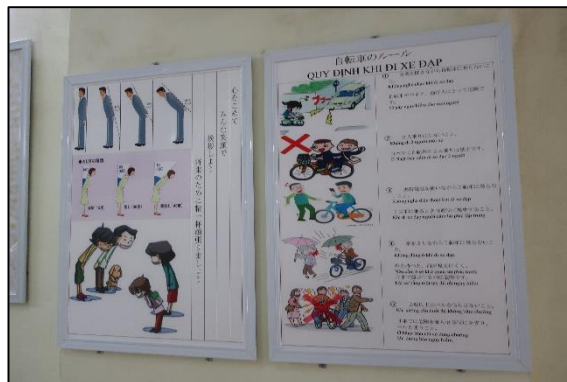
クラスは送り出しの業種ごとに分けられているため、採用職種(左官や惣菜)の専門用語や基本作業についても指導している。

季節の行事である七夕や月見などはもちろん、茶道、書道、折り紙など日本の伝統文化

についても教えている。

勉強だけでなく日本で働くために体力づくりも行っている。朝のラジオ体操（日本のラジオ体操）や施設内をランニング、腕立てなどの筋力トレーニングも行っている。

ごみの分別や報連相についての掲示物



③ 費用について

授業料や寮費は研修期間中の合計で5万円～6万円程度。ホアンロン社在席の介護職の学生の場合は受入企業が授業料を負担している。受入企業によっては日本語能力試験N3取得までの費用を負担してくれる場合もある。送出手数料はベトナム政府によって上限3,600ドルと決まっている。しかし実際はそれを上回ることもあるようだ。仲介ブローカーが入ってくるとさらに費用がかさみ、学生が手数料とあわせ100万円以上の高額な負担(その多くは借金)をする場合もある。ブローカーが介入しないように高校と直接提携している送出機関もある。

④ アフターケア

送り出してから、LINEやFacebookのグループで日本にいる実習生と担任の先生が連絡を取り合う。日本語の表現(腹痛での有給休暇取得など)についての相談や仕事についてもやりとりがある。辞めたいなどの相談には日本語がうまくなれば給料が上がると教えている。送出機関から受入企業へ給料の昇給について交渉することもある。帰国後、日本に戻りたい学生には仕事の世話をし、日本語学習の経験を活かしたい学生には通訳の仕事を紹介することもある。

また送出機関の日本事務所の駐在員が定期的に受入企業を巡回しており、実習生の働きぶ

りなどを確認している。

⑤ 学生から見る日本の都市部と地方について

学生は日本各地の違いが分からず、給料の金額で判断してしまうため給料の高い都市部に魅力を感じる。特に人気のあるのは関東(茨城)や、関西(大阪)など給料の高い地域。都会に魅力を感じる技能実習生には田舎で働くことについてメリットを伝えている。(例：都会は賃金が高いがその分、生活費も高い。田舎の中小企業は面倒見が良い。中小企業で少人数のほうが仕事の量が多く、残業も多いので稼げる。)

送出機関からみた岩手の印象は親切で面倒見がよく、悪い評判はない。都市部に比べれば人口は少なく、気温が低く冬が厳しい印象をもっている。

⑥ 日本以外の技能実習生の受け入れ先

日本以外の技能実習生の受け入れ先としては台湾や、マレーシア、韓国やドイツなどが挙げられる。台湾の場合は即戦力を求められ、語学力よりも技術を重視する傾向にある。台湾は制度上入国手続きが簡便で行きやすいが、技術が育たず学生が使い捨てされるような印象を持っている。日本企業が不合格なら台湾、その次がマレーシアの順で受験する。ドイツは求められる技術が高く厳しい市場であるため少ない。韓国はこれからという状況。

⑦ 人気・不人気の職種

人気の職種は製造業である。理由は職場に屋根がある職業は天候に左右されず安定して仕事ができるため。農業や建設業は雨風、雪の天候に左右されるため不人気である。

介護職も不人気の職種の1つである。求められる技術の割に賃金が見合っておらず、ピラミッドの底辺と思われており良いイメージがない。そのため人が集まりづらく、介護職の受け入れでは手数料を企業が肩代わりするケースがある。

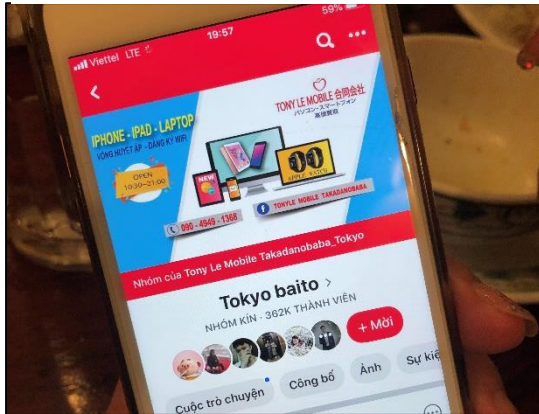
⑧ SNSでの情報共有について

学生同士の情報共有はFacebookのグループ機能を利用して情報共有が行われている。悪い情報も良い情報もすぐに口コミで広まってしまい、採用にも大きく影響する。(悪い情報例：暴力がある、賃金が低い、残業少ない 等)

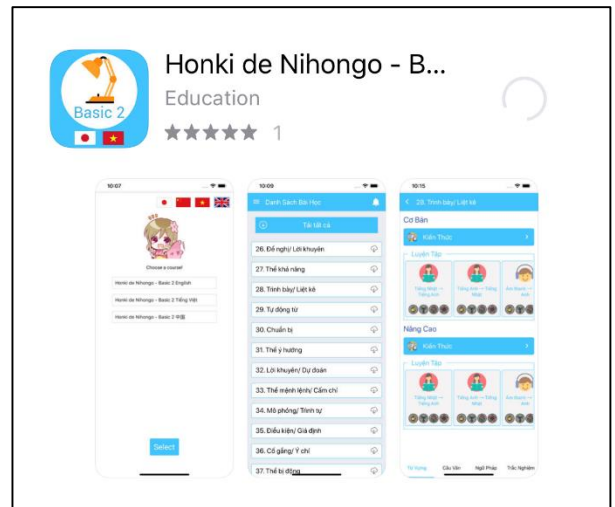
⑨ 失踪後の対応について

SNSでベトナム人同士のコミュニティが形成されているが、中にはブローカーも介入し悪い情報も飛び交い、失踪につながるケースもある。送出機関は失踪届を出す前に家族へ連絡を入れる。なぜなら本人から最初に連絡があるのは家族で、家族から本人へ誤った選択をしないように注意をしてもらう。そのため送り出しにあたっては家族面談を重視している。

Facebook のベトナムコミュニティのページ(東京)



ベトナム人向けの日本語学習アプリ



(3) 日本語学習について

① 学習の流れ

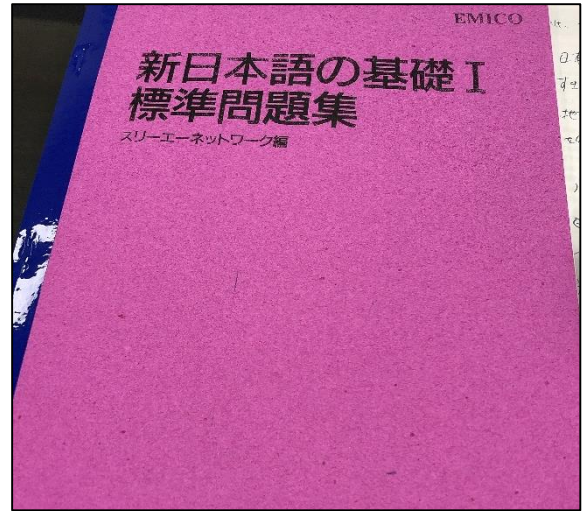
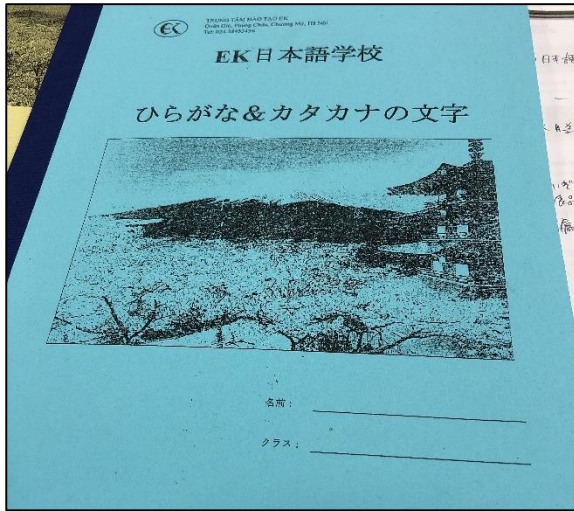
企業面接合格後、採用が決まった学生のみが学習する研修センターにて6か月から10か月程度の研修を受ける。学習を始めてほしい3か月目にN5とN4の試験を実施する。N5合格は送り出しの必須条件。N4は大体4か月から6か月の間に4割くらいが取得する。N3を取得する学生もいるが10か月から1年と長期の学習をした学生に限る。月に3回のテストを実施し合格できなければ復習や追試を実施する。10人中1～2人は毎回補修の対象になり、休日の日曜日も補修を行う場合もある。クラス分けを入校後行うが能力に差が出る場合があるので勉強のでき次第では上のクラス、下のクラスへの移動もある。

② 勉強方法

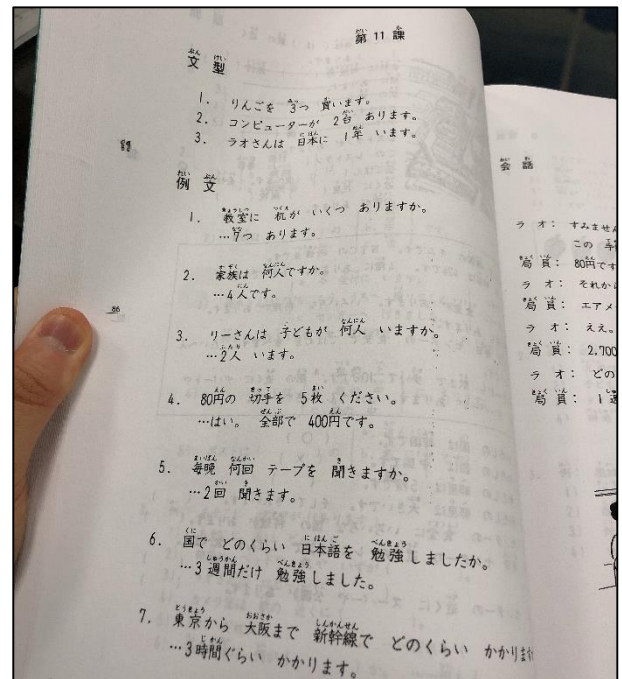
日本語能力で重視しているのは仕事のコミュニケーションに欠かせない「コミュニケーション能力」や「話す力」である。暗記にはフラッシュカードが効果的であるため採用している。訪問時にはシャドウイングでの学習を行っていた。

学生が利用するテキストは「みんなのにほんご」(6か月で35課までの進度)や「新にほんごの基礎」を利用している。「新にほんごの基礎」は技能実習生を対象として作られていることが採用されている理由である。テキスト以外にもアプリなど手軽にできる勉強方法も浸透している。

学生が利用していたテキスト（一部抜粋）



国	音 コク、コク	外国 (がいこく) 内国 (うちこく)	quốc gia quốc gia
上	音 ショウ 訓 うえ、うへ、あひら、あひら	上 (じやう) 上 (じやう) あひら (あひら) あひら (あひら)	trên trên ở phía trên ở phía trên
下	音 カゲ 訓 した、しも、さがる、さげる、たげ、たげる	下 (げ) 下 (げ) さがる (さがる) さげる (さげる)	dưới dưới dưới dưới
中	音 チュウ、ジュウ 訓 なか	中 (チュウ) 中 (チュウ) 中 (チュウ) 中 (チュウ)	ở giữa ở giữa ở giữa ở giữa
外	音 ガイ、ゲ 訓 そと、ほか、はず、はず、はず	外国 (がいこく) 外 (がい) 外 (がい) 外 (がい)	ngoài quốc gia ngoài quốc gia ngoài quốc gia ngoài quốc gia
見	音 ケン 訓 みる、みえ、みせる	見 (けん) 見 (けん) 見 (けん) 見 (けん)	xem xem xem xem



③ 学生について

研修センターで 10 時間の勉強のあと、寮でもさらに 2 時間勉強をしており、日本での 3 年間の技能実習中には N 3 を目指し学習を継続する。

日本での語学学習の成果を活かすために帰国後は日本語通訳、ガイド、送出機関への就職や起業をする学生も多い。起業の場合は送出機関では経営指導をする場合もあるが、出資などは行わない。

6 所感

(1) 今回の調査での知見について

① 技能実習生や親の希望としては、短期集中でできるだけ多く稼いで貯金したいが共通であった。また多くは、日本語や日本の技術、技能（ビジネスマナーを含む）を学び、技能実習終了後、ベトナムで日系企業等日本関係の仕事をしたいや特定技能資格で継続して日本で働きたいなど将来を見据えた前向きなものであった。

一方、これらはそのまま、どれだけ残業させてくれるのか、日本語学習を支援してくれるのかといった不安にも繋がっていた。

② 受入企業の一番の不安は、日本語能力、コミュニケーションがうまくいくかどうかというものであった。

③ 送出機関については、訪問した3社とも、日本語の指導に加え、実技指導、生活指導においても、体系的に取り組んでいる。

④ 技能実習生の日本でのサポートは、送出機関、監理団体ともに定期巡回により取り組んでいる。

⑤ 日本での日本語学習については、基本的に本人の努力に任されており、支援は十分とは言えない。日本語能力については、会話が重要視されており、勤務地周辺の地域住民との交流による学習効果への期待も高い。キャリアアップのため、日本でN3などの資格獲得を目指す技能実習生も少なくない。

⑥ 岩手の評判は、人が親切、面倒見が良い、寒いといった一般的なことで、技能実習生の最大の関心事である待遇や労働環境については幸いにして悪い評判はなかったが、良い評判もなかった。

(2) 以上をふまえた今後の取組について

① 継続的に、県内での技能実習生の生活実態や支援ニーズを把握し、適切に支援し、良い評判が立つようにしたい。

② 特に日本語学習について、関係者(受入企業、監理団体、送出機関、地域の日本語教室や国際交流協会等)と連携し、学習者のニーズや学習環境により添った支援(各人が目指す学習到達目標を達成するための支援)を行う。

③ 勤務先、居住先の周辺住民との交流を促進し、日本語能力向上のみならず、日本文化への理解促進、さらには互いに暮らしやすい生活環境の醸成につなげる。

補足：ベトナム高度人材について

視察先滞在中、ベトナム高度人材について日越大学熊谷チーフアドバイザーと JICA ベトナム事務所小林次長より下記の通り話を伺うことができた。

日越大学とは、日本の大学をベースにベトナムの実状に応じて設計された新しいモデルの大学で、財政の自立と民間による投資を原則として、持続可能な発展及び自立した大学運営を目指している。2016年に開校した。

修士課程 140 名定員に対して現在学生数 105 名おり、教員は常勤が 20 名(ベトナム人、日本人半数)、非常勤講師 8 名(ベトナム人)である。修士課程 8 コースあり。各コースに日本の大学が幹事大学としてついている。ベトナムでは学部生は増加しているが経済好調で卒業後すぐに就職するため、修士生は減少しており、日越大学でも学生確保に苦勞している。日越大学の目標は ASEAN の COE (center of excellent) となること。

第 1 期卒業生 58 名の内、12 人は日系企業へ内定(日系企業：三井住友海上ベトナム、日本海運ベトナム、デンソーベトナム、Panasonic R&D センターベトナム等)

第 2 期卒業生 82 名の内、5 人は日系企業へ内定(東洋建設ベトナム、B&Company、伊藤忠ベトナム、AGS ベトナム、長崎大学熱帯医学研究所ベトナム拠点等)。

全員が日本での職務に興味があるわけではなく、ベトナム国内で就職する学生も多い。また、親の反対で日本企業への内定辞退したケースもある。

北海道の企業が日越大学の学生を誘致するために J I C A 北海道を通じて日越大学での企業説明会に参加し人材を確保した例がある。岩手県も J I C A を通じて企業説明会に参加してはどうか。

外国人材誘致に日本の知事が動いている(千葉県、茨城県など)。先日、千葉県知事がベトナム首相訪日時に面会している。

(所感)

経済好調ゆえ、就職先が豊富であり、「進学よりも就職」というベトナム人学生の傾向が確認できた。従って高度人材市場はタイトであるが、北海道や千葉県など積極的に動いて成果を挙げている事例もあるので、当協会としても産業界、県、JICA など関係者と連携し、取り組みたい。